



華麗なる図書館利用者のための

Cool Librar

カール・リブラー

講座

カジのうら若き青春黙示録

文/カジ

うちのおかんがたまにとんでもない発想をすることがあって、自分もそれを受け継いでるなああって思う瞬間が時々あるけど、その発想を実践してみると意外と大した事ないっていう結論。

〔前回までのあらすじ〕

学園のマドンナ千絵ちゃん隣の席で青春を謳歌するカジ少年(中2)。しかし、またしても新たな壁が立ちちはだかる。優等生で文武両道の千絵ちゃんと定期テストで勝負することに…。どう考えても勝ち目はないが、人間時には負け戦に立ち向かわなければならぬ時がある。あるのだよ。

今日は筆者のテンションがおかしい故、文章もおかしい感じになってるよ。見出しもロングタイトルのラノベ風だよ。

常に教科書が視界に入るように生活する！

勝負すると決まった以上、ここは死に物狂いで勉強するほかない。結果次第では、千絵ちゃんをキユンとさせることができるかもしれんしね。ただ、ここで一つ問題が発生。これまでのカジの人生において「家で勉強する」ということがほとんどなかったため、正直どうやってテスト勉強しているのかわからない。1年のテストは授業で聞いたことを雰囲気でも回答して、だましましで乗り切ってきたのだよ。さあどうしたもんか。悩むこと数分、カジ少年が苦惱の末導き出した勉強法は、

えっ？って思われるヤングも多いだろうが、勉強嫌いのカジにとってはこれがベスト。いや、この方法しかなかったのだ。自ら机に向かい勉強することが不可能ならば、無理やりそういう環境にしてみましょうという、いわば受動的勉強法！「ごはんを食べるときも、トイレに行くときも、ファミコンやつてるときも常に教科書を広げておくことで、否応にもそれが視界に入ってくる。そしてそれを覚えて覚えようとするわけでもなく、ただ眺めるだけ。一見効果が薄そうに思われるこの方法も、長期的に行うことで、無意識のうちに教科書の内容が頭に入ってくるようになるのだ！

ならなかったのだ！

世の中そんな甘くないのな。聖徳太子じゃないんだから、一度に複数のことをアレスするなんて無理無理。凡人は教科書を音読するなり、いろいろ書いてみるなり普通に勉強するのが一番。そう気づくまでに、数日を費やしてしまうカジ少年であった。

